

村落社会研究会の大会も本年度で第二〇回を数えるに至りました。村落二〇周年というわけですが、その記念事業の一つとして、「研究通信」の第一号より第五〇号までを、運営・編集合同委員会の決定にもとづき、復刻刊行することとなりました。戦後日本における村落社会の研究史をかえりみ、将来の研究をおしすすめる上で、重要な資料のひとつとして活用されることを期待しております。

当初の「研究通信」は、事務局担当大学の会員が原紙きりから印刷まで、素人まるだしの謄写刷りをやっていたので、なかには、「読めないことと有名」といわれた号もふくまれています。それらも、そっくりそのまま、ここに再現しました。また、事務局は次々と各大学の手に受け継がれ、廻りもちの事務処理をつづけて参りましたので、「研究通信」の号数が必ずしも正確に号を追わず、同じ号数のものが二つあったり、それに気付いて号数を一つとばして事実に合わせていたり、というようなこともありました。そういう不揃いも、また活字によるタイプ印刷になってからの誤植なども、全く訂正を加えず復刻しました。二百部限定出版（番号入り）というのも、世にいう豪華版の出版などをまねたのではなく、まったくの内輪の、ささやかな記念の刊行にほかならないからであります。

村落社会研究会なるものをつくろうではないかという最初の呼びかけをされた有賀喜左衛門会員に、復刻に当たっての序文を書いていたことができましたが、この限定出版の第一号は、われわれの研究会の結成に至る最初の提案者のお手元においていただくこととし、われわれの感謝の気持ちをあらわしたいと思います。

この「研究通信 創刊号（第五〇号）」の刊行が可能となったのは、第一号からたんねんに保存されており、ころよくそれをお貸しくくださった原宏・森岡清美両会員のおかげであり

これまた感謝のほかありません。

かつまた、一九七二年一〇月の第二〇回記念大会の準備から完了までの一年間、事務局を担当した民秋言会員の、本書刊行に関する積極的な企画とそれを具体化するための実務上の献身をぬきにしては決して実現しえなかったものであります。

村研運営・編集合同委員会における決定が、このような形で実現をみたことについて、関係各位の示されたなみなみならぬ協力は、さすが「村研」だけのことはあると思ふ次第であります。

さうごに、技術的に大変困難の多い本書の電子複製について、社長みずからそのテストに当り、紙質の悪い用紙に手刷りされ、すでに黄ばんでさえている初期の「研究通信」を、このような形で再現するため誠意をつくされた豊文堂寺杣栄吉氏の努力とその成果に心からの謝意をあらわしたいと思います。

一九七二年一〇月一日

村落社会研究会

編集委員 福

武

直